



あるペンションのオーナーの家でウイスキーの樽の廃材を暖炉の薪にしているのを見てスピーカ・ケースに使うことを思いついて作ったという樽スピーカ。元の樽は150~170年の年代物。スピーカを見た希望者のために樽スピーカとして頒布するようになった。手作りなので月に10セットくらいのこと

(左)インターネット接続を宿泊者に提供する先駆けとして有名になった長野県乗鞍高原ペンション・ビレッジにある“ワインズ”。ペンション内をWebカメラでライブするなど先進でありつつモダンな装飾のリビングでは真空管アンプで音を楽しめる

(上)リビングに鎮座している自作の2A3シングルのステレオ・アンプ。樽スピーカとも相性がよく音のキレがよいと評価されているという。整流にも真空管5U4Gを採用し製作費は8万円。宿泊客の2割ほどが真空管アンプのユーザにワインズは“真空管オーディオの宿”として親しまれている



TU-870キット製作の体験では懇切丁寧にサポートされる。通常、時間短縮のため主要部分は宿泊者が到着するまで村瀬氏が組んでおくとのこと。希望者は到着後残りの配線、組み立てを行うが製作の醍醐味は十分に味わえる